

のり子の週間日誌は議会が中心で省略します



## “要求あるところ山下よしきあり”

先日、山下よしき党書記局長代行・参院議員室からリーフと国会報告が編集室に。リーフに「要求とたたかいあるところ山下よしきあり」と。和歌山にも何度も足を運ばれた中の一つ、四箇郷地区を通る国道24号線の歩道拡幅の要求で07年2月に住民ら10数人と調査（写真上）。国交省河川国道事務所の係官2人も参加、車椅子を押しているのが山下さん。以後藤井健太郎前県議も尽力。インター近くから新在家に至る約1.4キロで、車椅子がやっと通る狭い歩道が、国道両端の用水路の上に2.5m～3mに拡幅され児童もゆったり（写真下）。工事は09年に着手2年前に完成したが、こんなことも思い出させてくれた「山下リーフ」を皆さん

党県市議員団が要望していた市駅のホームにエレベーターが完成。視察するのり子と、渡辺、南畑市議。（3月6日付日刊「赤旗」に詳報）



県会議員 奥村のり子の  
しんぶん赤旗 読者ニュース

2013年3月10日 第75号

—奥村のり子生活相談所—

〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場1-11

電話&FAX 073-427-7121

## インフルエンザで一般質問立てず お詫びします 補正予算の反対討論に立ちました

東日本大震災から丸2年経ちました。あらためて犠牲になられた皆さんに心からの哀悼の意を表明します。今はただお亡くなりになられた皆様の無念を心に刻み県民一人ひとりの命が大切にされる防災対策の実現、そして原発ゼロの社会実現のためいっそう頑張ることを誓います。

2月定例議会中ですがインフルエンザにかかってしまいました。一般質問の機会を逃してしまい皆様にお詫び申し上げます。健康が第一だとあらためて感じています。みなさまもお体には充分にお気をつけて下さい。

議会では補正予算について反対討論に立ちました。

議案第29号県立こころの医療セン

ター事業会計補正予算で、給食業務委託が追加されていますが、県立こころの医療センターは精神科医療の中核でない、精神科救急医療や他病院では対応困難な患者を受け入れ、認知症の専門治療など民間ではできない不採算部門も含めて担ってゆく役割があります。

経営効率化計画の名で給食の民間委託は見直すべきだと考えます。病院における食事は医療の一環であり患者の症状にあわせきめ細かな対応が求められます。民間委託により、安全性と質的な面が後退しかねないと危惧されます。こうした点から、給食民間委託の債務負担行為を含む議案に反対討論を行ないました。（のり子）

## オスプレイ 飛行は中止を 県議団申し入れ

米海兵隊の垂直離着陸機MV22オスプレイが予定を変更して、3月6、8日紀伊半島を含むルートで訓練するという報に、党県議団は6日緊急に「低空飛行訓練中止要請を求める申し入れ書」を知事に提出しました。防衛省が5日に発表したもので、テレビでは仁坂知事も「説明がなく納得できない」と述べていました。

## 勝海舟の碑の前で

和歌山市駅の近くでこの碑を見つけた。いまから150年ほど前の1863（文久3）年の夏。開国も間近で外国船が日本近海にしばしばやってきた。そこを見て回ろうと、幕府の軍艦奉行だった勝海舟が10数人のお供と清水平右衛門の豪邸に4日間滞在した。そのお供の1人にまだ若い坂本龍馬がいた。

清水はそのことを「勝海舟先生と坂本龍馬の事ども」に書いています。「坂本さんは丈も高く筋骨も逞しく、先生の供をして海岸へ行くときは先生の刀持ちをして馬まわりを離れずに歩き、駆け、帰ってからは畳の上に大

## 若き坂本龍馬の“珍事件”にふれて

の字になって吐息を「うっ」と吐かれるのをたびたび見ました。ある日、先生の供をして和歌浦から帰ってきた坂本さんは、疲労のあまり無言で座敷に倒れていましたが、裸になって風呂に入ったところ凄まじい音が響いたと同時に、「あっ、しまった！」と声が出ました。皆で見に行くと、風呂桶の輪がはじけ、底が抜け、湯が流れ出るといふ大騒動。坂本さんは濡れ仏のように板の間に突っ立っているという体たらくに、皆は抱腹絶倒。この出来事を『坂本さんの湯殿の滑稽演劇』と名付けて言い伝え、来訪の客人に話しておられます。そうかあ、ここに龍馬が泊まったのかあ、とス

党県・副委員長

参院選選挙区予定候補

原やすひさ

